

粉体大気圧プラズマ処理装置



《装置外観》

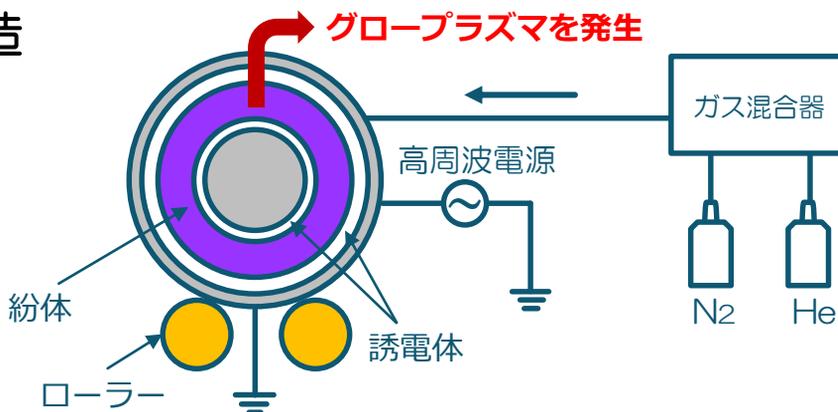


《放電セル》

特長・用途

- ◎ ローラー式放電セルを採用、効率的に試料の処理が可能
- ◎ ポリマー粉体表面の親水化・疎水化
- ◎ プラズマガスの選択により、各種官能基の導入が可能

放電セル構造



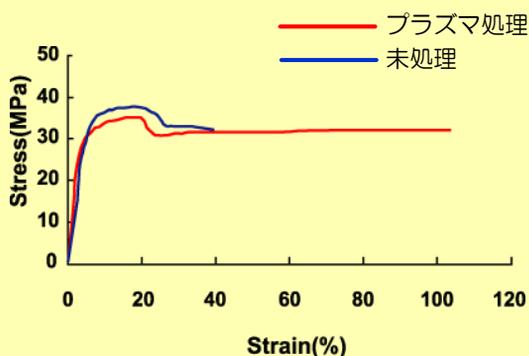
装置仕様

放電方式	同軸円筒型 誘電体バリア放電によるプラズマ発生
出力周波数	15 kHz ~ 30 kHz (正弦波)
最大出力電力	1 kW
使用ガス	2種タイプ / 3種タイプ
処理量	150g / 回
連続反応時間	5分
電源	AC200V 単相 ±10% 20A
重量	90 Kg
大きさ (L×D×H)	790mm×560mm×1270mm

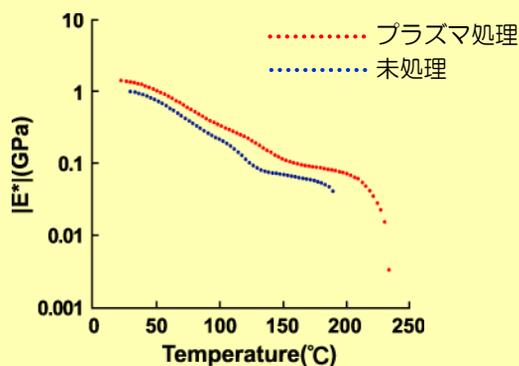
※仕様は予告なく変更することがあります。

【プラズマ処理ポリエチレンとナイロン6(5/5)のブレンド】

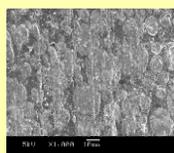
伸びが増加



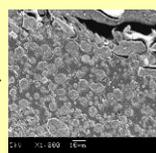
耐熱性の向上



分散性の向上



未処理



プラズマ処理

プラズマ処理を行うことにより混合物(この場合ポリエチレンとナイロン)の分散性が良くなり、粒子が小さくなっているのが確認できる。

※本装置は九州産業大学総合機器センターの古賀啓子先生(専門:高分子)の発明(特許第5080701)を活かし、当社が製品化したものです。